

図1 実験の概要

マウス受精卵に核・染色体を赤色に染める蛍光プローブを顕微鏡下で注入し、超高感度カメラを搭載したスピニングディスク式共焦点レーザー顕微鏡 (CV1000、横河電機) を用いて第一分裂、第二分裂、第三分裂中の染色体分配を観察し、胚盤胞期まで到達した受精卵を移植した。

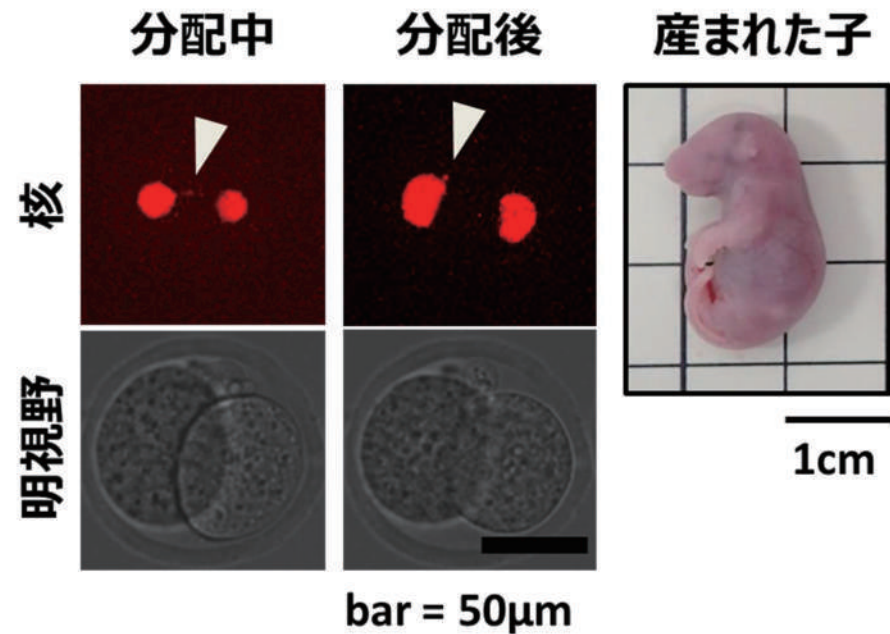


図2 受精後、はじめての染色体分配に異常がみられた受精卵とそこから得た子

赤色は標識された核、染色体を示す。第一分裂時に染色体分配異常を起こし、小さな核を形成した (白矢頭) 受精卵の中でも、胚盤胞期に到達した受精卵を移植したところ、子が得られた。